

有珠山

1 概況（平成 14 年 10 月）

火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

2 噴煙活動の状況

金比羅山火口群では K-A 火口壁から立ち昇るわずかな噴気が時々認められる程度で、火口底からの噴煙は今年 6 月 6 日以降観測されていません。K-B 火口の噴煙は引き続き観測されませんでした。

西山西麓火口群の N-B 火口の噴煙は火口上 100m 以下で推移しました。山頂火口原、昭和新山でも特別な変化はありません。

3 地震活動の状況

地震回数は 1 日あたり 0～3 回で推移しました。震源はほとんどが山頂火口原の浅い所と推定されます。火山性微動および空振は昨年 9 月以降観測されていません。

月別地震回数（A 点）

平成 13～14 年	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
地震回数	38	18	16	27	27	23	18	23	26	17	19	21
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 地殻変動の状況

西山西麓を中心とする収縮傾向は気象庁の G P S 観測では捉えられない程度に小さくなっています。しかし、国土地理院および北海道大学の G P S 観測によると、わずかな収縮および沈降が続いています。

5 上空からの観測結果

北海道開発局の協力により 10 月 12 日に実施した上空からの観測では、K および N 火口群は水溜まりとなっている火口が多い中、N-B 火口底は湯溜まりで噴気活動も続いていました。また、西山西麓では地熱活動が続いており、所々で弱い噴気が認められました。山頂火口原では活発な噴気活動が継続しています。

6 調査観測の結果

10 月 23～24 日に調査観測を実施しました。

【K 火口群】

K-A、K-B 火口ともに火口底は水溜まりとなっており、熱水の湧出は認められませんでした。K-A 火口の東壁で弱い噴気活動が続いています。

【N-B 火口】

噴気活動が続いています。火口底はほとんど乾いており、赤外放射温度計*で南西火口縁から測定した火口温度は 112（測定距離 60m）で、今年 5 月（117）と同程度でした。

【山頂火口原】

I（アイ）火口、小有珠南東麓、銀沼火口などで活発な噴気活動が続いています。I 火口の噴気温度の最高は 392（今年 5 月 398）で、引き続き高温を維持しています。

【昭和新山】

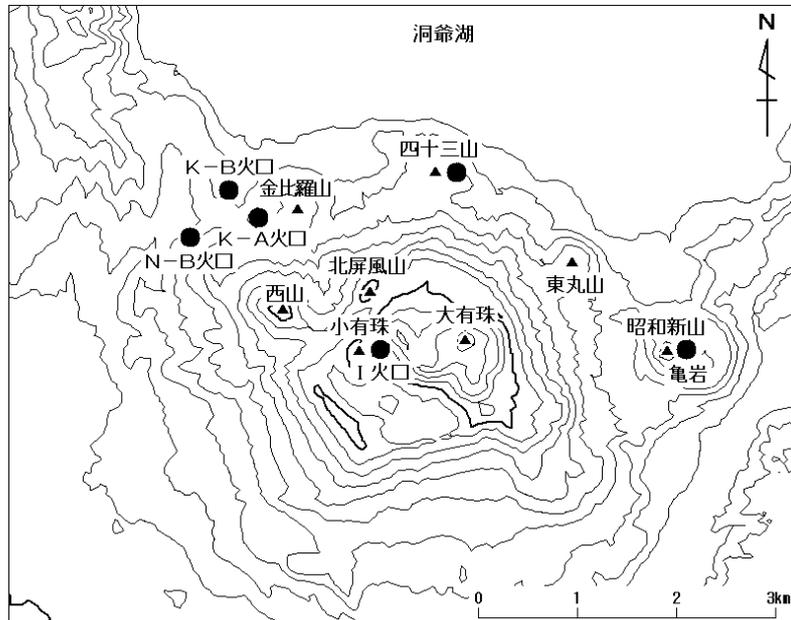
亀岩の噴気温度は 164（今年 5 月 181）亀岩南側噴気帯は 289（同 294）と高温を維持していますが、噴気活動は弱い状態です。

【四十三山】

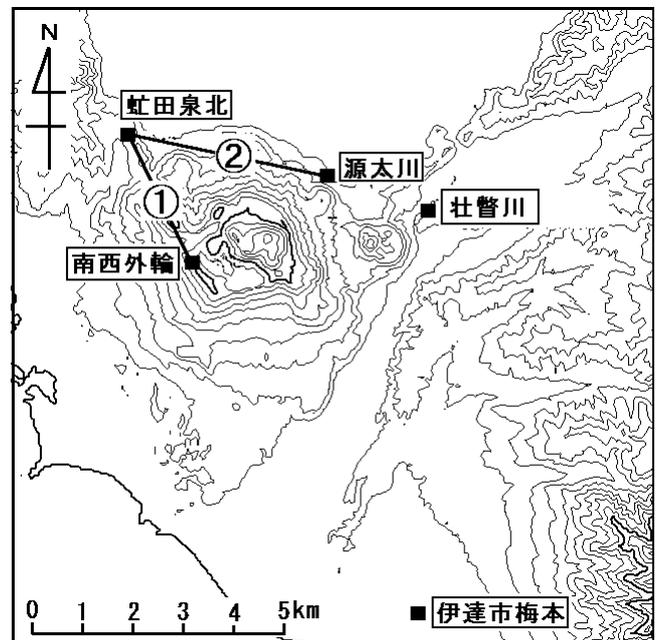
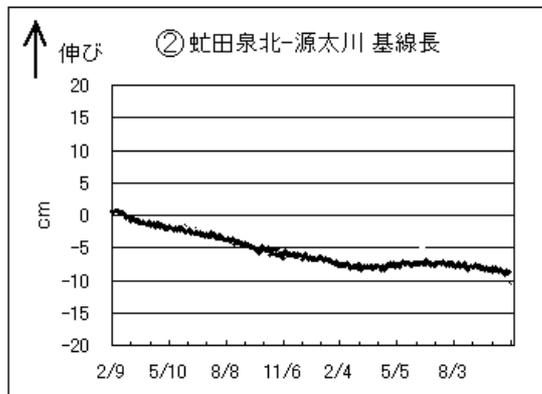
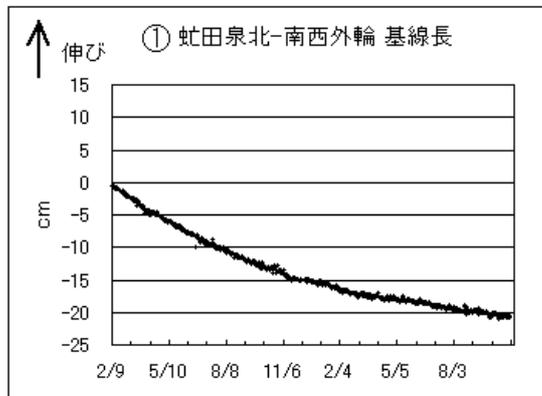
南東斜面の噴気温度は 54（今年 5 月 54）で、弱い噴気の状態等に変化はありません。

* 赤外放射温度計

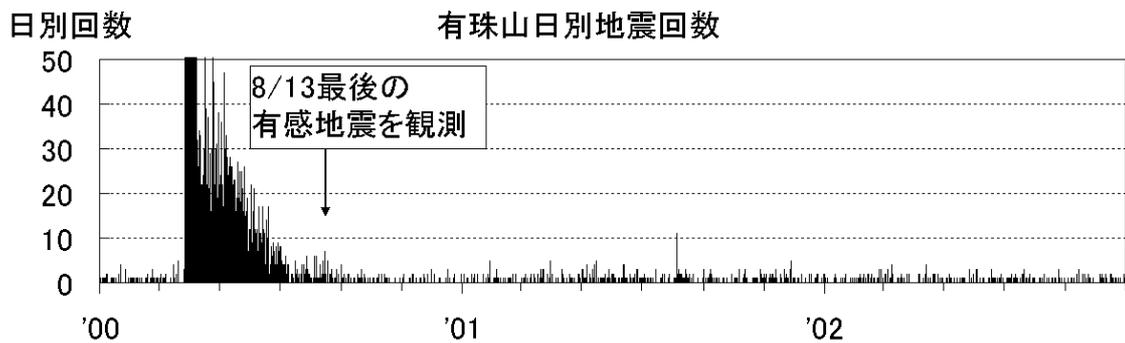
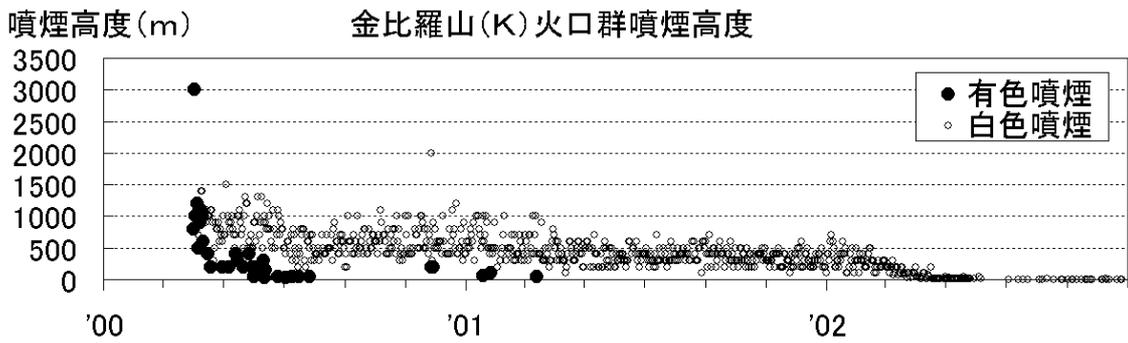
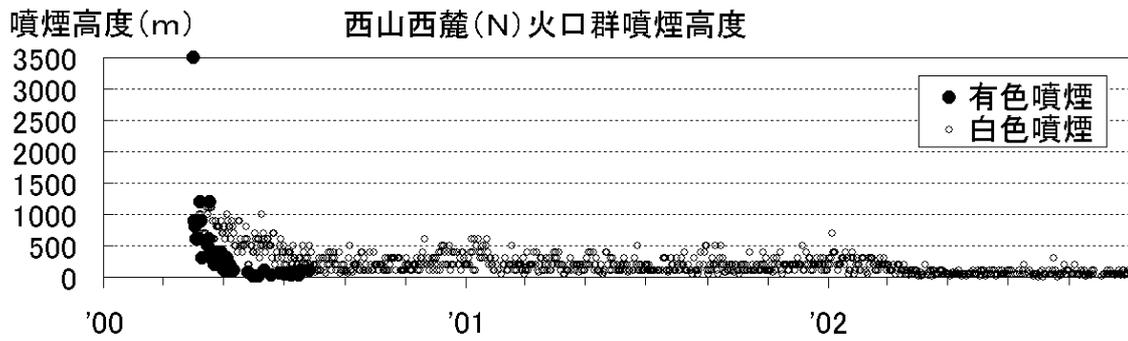
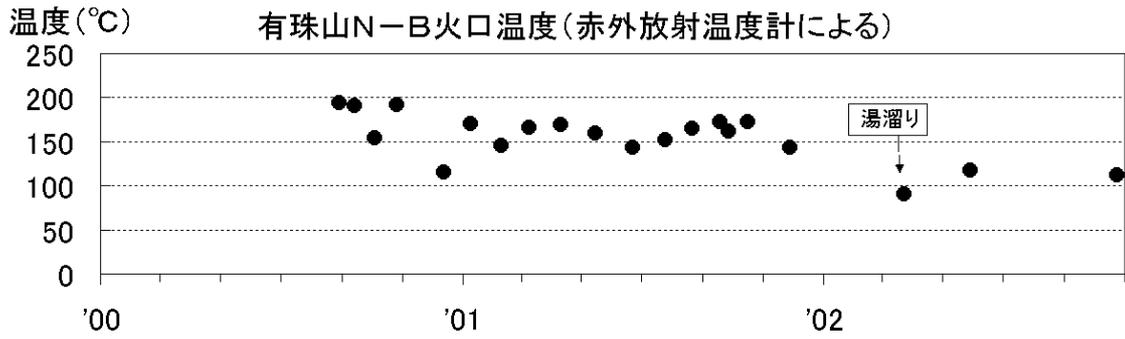
物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器。熱源から離れた所から温度を測定できるが、噴煙などではっきり対象が見えない場合や熱源から離れると温度が低く表示されるなど、値は測定条件によって変わり実際の温度とは必ずしも一致しない。



有珠山周辺図



有珠山基線長変化(2001年2月9日~2002年10月31日)



有珠山の火山活動経過図(2000年1月1日~2002年10月31日)